

平成 28 年度 海洋スポーツセンター事業報告書

海洋スポーツセンター長 中村 夏実

I. 主に取り組んだ事業（特記事項）

1. 海洋スポーツの普及を目的に関連公開講座、学長杯オープンヨットレースを開催した。
2. 地域振興を目的に、地域海洋スポーツ関連事業に協力した。
3. 各事業において参加者数と満足度を調査し、地域ニーズを把握した。
4. セーリング競技等における競技力向上に関する合宿を開催した。
5. 協力者会議を開催し、年度を総括するとともに海洋スポーツ研究第 22 号を発刊準備中である。

II. 事業報告

1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

- (1) 海洋スポーツ活動のための指導者育成（主担当：中村／平成 29 年 2 月 18 日、19 日）

継続事業として、海洋スポーツ活動の指導者およびリーダーの資質向上と資格取得を目指し、カヌー&スノーケリング講習、NEAL リーダーの資格取得講習会を実施した。本年度の参加者は、計 6 名（4 年生 2 名、3 年生 4 名）であり、全員が、NEAL リーダーの資格を認定された。

- (2) 小型船舶免許取得講習会の開催

希望者がおらず、実施しなかった。

2. 研究プロジェクト

- (1) 生涯スポーツとしての SUP（スタンドアップパドルボード）が体力に及ぼす影響

（主担当：中村、海野／平成 28 年 通年）

SUP 愛好者の傷害に関連するアンケート調査を行い、協力者会議において、海野客員教授より発表がなされた。SUP 運動の運動強度等に関するデータ収集は、十分とは言えず、今後も継続課題である。

- (2) カヌースプリント競技における U23 選手の体力に関する研究（複数年継続課題）

（主担当：中村／平成 28 年 通年）

成長期を終えた U23（19 歳～23 歳）選手の競技力向上のための基礎資料とすることを最終目的とし、最大酸素摂取量や無酸素生パワーなどの基礎的体力測定を実施し、各測定結果が競技成績とどのような関係にあるかを検討した。

- (3) セーリング競技における指導者用テキストの作成（主担当：榮樂／平成 28 年 通年）

H27 年度に作成した指導者用テキストを改変し、2 人乗り種目（420 級）での指導者用テキストを作成した。コーチングの際に活用できるレベルチェックおよび指導時における基礎ポイントについて示した。

3. 社会連携・社会貢献関係プロジェクト

(1) 鹿屋カップヨットレース大会協力（平成 28 年 8 月 27 日(土)開催／参加者 40 名）

鹿屋海洋スポーツクラブが主催するヨットレースへの運営協力、およびレース終了後の講習会(実技指導等)を実施した。

(2) 学長杯オープンヨットレース（平成 28 年 8 月 28 日(日)開催／参加者 55 名）

学長杯オープンヨットレースにて、ヨットレースに加え、他種目(スタンドアップパドルボードなど)レースまたは体験会を実施した。

(3) 公開講座

①公開講座A：楽しいスキndaイビング（初級者編）（主担当：中村）

開催日：5/11、5/18、5/25、6/1、6/8、6/15、6/22（プール 7 回：水曜日 19 時～21 時）
6/26（海 1 回：日曜日 9 時～16 時）

参加者：20 名

屋内実験プールで 7 回のスキndaイビング講座を実施した後、1 日の海でのダイビング活動を実施した。6 月下旬であったが、天候に恵まれ、計画通りに実施できた。

②公開講座B：楽しいマリンスポーツ（各種マリンスポーツ体験編）（主担当：榮樂）

開催日：4/17、4/24、5/8、5/15、5/22(半日追加日) 9:00-12:00; 5/29 9:00-16:00

参加者：15 名

半日講座を 4 回および 1 日講座を 1 回で、計 5 回の講座を企画した。ヨットやカヌーを中心とした活動とし、経験の浅い者が安全で楽しく継続した活動を行うために必要な知識と操船技術を学ぶことを目的とした。第 1 回目の天候は、初心者には厳しいといえる海面の状況であった。そのため、初回は参加者自身の経験を加味して、可能な参加者のみ活動を実施した。この回は、講座日程に加えず、1 日分を追加して実施した。

③公開講座C：少年少女海洋スポーツキャンプ（主担当：中村）

開催日：7/26、7/28、7/29 /参加者：24 名

小学 3 年生から小学 6 年生までの児童と、海洋スポーツを専門実技とする本学学生の交流を中心としたキャンププログラムを実施した。宿泊は大隅青少年自然の家を使用した。

4. その他関連事業

(1) 協力者会議

実施日：12 月 5 日（月）

会議テーマを「スタンドアップパドルボードが及ぼす身体への効果～SUP 実施者の実態を聞く～」として、1 名の外部協力者と本学客員教授の 2 名に講演を頂いた。学外者 15 名の出席があった。

(2) 鹿屋市立高須小学校との交流授業（主担当：中村、坂口）

実施日：5 月 27 日(金)、6 月 3 日(金)、6 月 11 日(土)

高須小学校はヨット学習（総合学習）の時間、本学は、実践的な指導実習の時間において合同で行った。本学学生は4月当初から授業内で準備をすすめ、指導案を作成して、指導に臨んだ。1日目に、事前学習（安全のお話、ライフジャケットの装着、艀装など）を実施した。2日目は、1～3年生班、4～6年生班にわかれて、カヌーとヨットを体験した。また3日目は、体験種目を入れ替えて実施した。全日程天候に恵まれ、楽しんで実施した。

- (3) 鹿児島南高等学校野外スポーツ実習（海洋スポーツ2年次）（主担当：中村、榮樂、坂口）
実施日：9月20日（火）、21日（水）

鹿児島南高等学校体育科の2年生を対象に行われた。前日に鹿児島県に上陸した台風16号の影響で、海岸線は活動できる状況ではなかった。1日目午前中のプログラムを海岸清掃にあて、環境教育として実施した。午後は、ペットボトルを使用したレスキュー体験を、ペットボトルを工作することから実施した。2日目は、穏やかな天気にも恵まれ、予定していたヨット、ウィンドサーフィン、カヌー&スノーケリングの実習を、1日に凝縮して実施した。

- (4) 教職免許更新講習会（主担当：中村、榮樂／平成28年8月3日（水））

バレーボール（午前中）、海洋スポーツ（午後）の時間割で、中学・高等学校教員を対象とした講座を実施した。主に、シットオントップ型カヌーの漕法、転覆したときのセルフレスキュー、ペットボトルを使ったレスキュー、スノーケリングの実技を実施した。また、安全に関する講義も行った。

- (5) マリンフェスタ in かのや への協力（主担当：中村、榮樂、坂口／平成28年7月17日（日））

マリンスポーツ部門におけるイベントの企画・実施・運営を担当した。主な種目は、ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スタンドアップパドルボード、バナナボートの5種目であり、ヨット部、ウィンドサーフィン部、カヌー部、ボート部学生の協力を得て実施した。

エキシビジョンレースとして、オープニングセレモニーで SUP のエキシビジョンレースを実施した。

- (6) 大隅青少年自然の家との事業協力（主担当：中村／平成28年 通年）

相互に、海洋スポーツ用具の使用および事業展開における人的交流を図った。特筆する交流事業は、自然の家の教育事業「海からのメッセージ」（錦江湾沿岸 110 km をカヌーと徒歩で漕破・踏破するプログラム）に、技術主任の坂口が安全管理者として動力船で行程の一部を帯同するとともに、学生1名のスタッフ参加を本学のスポーツコーチ実習（自然の家はインターンシップ扱い）として対応した。

- (7) 施設一時使用許可

鹿屋体育大学海洋スポーツセンター施設一時使用細則に基づく、海洋スポーツセンター施設等の一時使用について、20団体、延べ932人に使用許可するとともに、安全な海浜活動のため、5団体に対して、海洋スポーツセンター教員が活動の指導を実施するとともに、15団体に対して海洋スポーツセンター職員が救助艇操船等の指導補助を行った。

Ⅲ. 決算報告

1. 教育プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	50千円	外部有識者招聘（自然体験活動に関する勉強会）
物件費	1,694千円	消耗品
その他	504千円	外部有識者・スタッフ研修に係わる交通費
計	2,248千円	

2. 研究プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	64千円	客員教授招聘に関わる経費
物件費	618千円	消耗品・SUP（5艇）新規購入
その他	83千円	客員教授旅費等
計	765千円	

3. 社会連携・社会貢献プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	67千円	学長杯学生アルバイト
物件費	95千円	トロフィー・賞状印刷用プリンタ
その他	87千円	客員教授旅費等
計	249千円	

4. その他

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	46千円	協力者会議外部協力者謝金
物件費	2,692千円	協力者会議・レスキュー艇
その他	209千円	協力者会議旅費
計	2,947千円	

Ⅳ. その他

1. 発刊物

海洋スポーツ研究 第22号を発刊準備中。

2. 開催会議状況

海洋スポーツセンター協力者会議を開催した。（平成28年12月5日）

3. 広報活動

部logを利用し、授業、事業等の実施報告について随時公開を始めた。

4. センター利用促進策の成果

現時点では、海洋スポーツおよび学校関係団体からの使用要望が多く、事業の受け入れを取捨選択し、整理しながらの事業推進となっている。

また、設備（動力船や各種艇など）の貸し出し料金を設定したことで、関連団体の海洋スポーツ活動が当該団体指導者の指導のもと、海洋スポーツセンターで実施されることが可能となり、海洋スポーツセンタースタッフが活動における指導を担当せずともセンターの利用を許可することができるようになった。

本年度は、いくつかの関連団体が海洋スポーツセンターを使用するにあたり、その運用方法が整理され、実態に則したセンターの使用ができたと思われる。